

耳鼻咽喉科 初期研修プログラム

必ず習得するアウトカム

1. 耳鼻咽喉科の器具やファイバースコープを用いて鼓膜、鼻腔、咽頭、喉頭の観察ができる。
2. 耳鼻咽喉科領域の代表的疾患について、聴力検査、平衡機能検査などの機能検査およびCT、MRIなどの画像検査の評価ができる。
3. 鼻出血、めまい、扁桃炎など耳鼻咽喉科で遭遇する機会が多い急性疾患に対して初期対応を行い、専門医への適切なコンサルテーションができる。

研修目的

耳鼻咽喉科では頸から上の内科的診療から外科的手術まで取り扱う範囲は幅広い。聴覚、嗅覚、味覚、触覚、平衡感覚などの感覚や感覚器を担当することも特徴の一つで、耳鼻咽喉科疾患はこれらの感覚機能障害のほかにも急性炎症や腫瘍、外傷など、扱う疾患は多岐にわたる。この中でも救急疾患を中心に耳鼻咽喉科診療で遭遇する機会が多い疾患に対して治療方針を学び、プライマリケアを修得することが研修の目的である。

研修目標

◇ 一般目標

耳鼻咽喉科の体表的な疾患に初期対応できる知識、技能、診療態度の習得に努める。

◇ 行動目標

1. 頭頸部領域の診察（鼓膜、鼻腔、咽頭、喉頭の観察）を行い、その所見を診療録に記載できる。
2. 耳鼻咽喉科における生検や手術を指導医のもとに行うことができる。
3. 耳鼻咽喉科の体表的な疾患について、症状および身体所見の結果を踏まえて聴覚機能検査やCT、MRI検査の適応を判断し、その結果を解釈できる。
4. 専門医への適切なコンサルテーションができる。

◇ 研修期間中に経験可能な疾患・疾病、および手技

1. 突発性難聴、顔面神経麻痺のステロイド治療：10～20例
2. めまいの診断、治療：5～10例
3. 鼻出血の診断、治療：1～5例
4. 鼻骨骨折・顔面外傷の診断、治療：1～5例
5. 急性中耳炎の診断、治療：1～5例
6. 急性扁桃炎の診断、治療：5～10例
7. 嚥下障害の嚥下機能検査：1～5例
8. 扁桃周囲膿瘍の穿刺・切開排膿術：2～5例
9. 扁桃摘出術・アデノイド切除術（助手または術者）：5～10例

10. 中耳炎手術（助手または術者）：1～5 例
11. 慢性副鼻腔炎手術（助手または術者）：5～10 例
12. 頭頸部腫瘍手術（助手または術者）：5 例

（3 ヶ月の研修期間中に初期研修医が経験できる疾患と手技、および経験可能な具体的な数（数値目標）の記入をお願いします。）

研修方略

指導医のもとで研修を行う。外来診療においては病歴を聴取し、耳、鼻、咽頭、喉頭の観察を行い、必要に応じて検査を行う。臨床所見や検査結果から疾患を鑑別し、治療方針を立てる。病棟診療においては入院患者の診察を行い、疾患ごとの治療方針を学ぶ。手術においては、主に手術助手を担当し、症例により指導医のもとで術者を担当する。

研修評価

外来診察、病棟回診、手術症例検討会におけるプレゼンテーションを通して随時評価を行う。

週間予定表

	午前	午後	夕方
月	外来診療 病棟回診	手術	手術症例カンファレンス 病棟回診
火	外来診療 病棟回診		病棟回診
水	外来診療 病棟回診 手術	手術	病棟回診
木	外来診療 病棟回診	嚥下症例カンファレンス	病棟回診
金	外来診療 病棟回診 手術	手術	病棟回診

（表は、適宜加除修正ください。）

指導責任者および指導医

指導責任者：太田伸男

指導医：東海林史

〃：鈴木貴博

：佐藤輝幸

〃：野口直哉

〃：山崎宗治

学生（4~6年生）や他科研修中研修医のカンファレンスの参加の可否

参加可・参加不可

研修医発表会、学会発表に対する指導体制

耳鼻咽喉科関連の学会にはできるだけ参加し、最新の情報、知見の収集に努める。研修医自ら発表を行う際は、事前に研修医発表会・学会での発表を想定した予行会を行い、スライド構成やプレゼンテーション方法につき上級医が指導を行う。

同時期に受け入れ可能研修医数（1クール：3ヶ月）

1名/1クール

初期研修医 耳鼻咽喉科研修目標

初期研修医が耳鼻咽喉科での研修期間を有意義なものにするため、下記の学習、手技獲得の目標を設定した。耳鼻咽喉科で経験する疾患の数や種類に研修時期が大きく影響するため、下記の目標は必ずすべてを満たす必要はない（経験できない場合もあり得る）が、耳鼻咽喉科を専門としない医師でも最低限経験しておくことよい手技や行為等を含めているため、努力目標としてなるべく経験できるように積極的に研修していただきたい。また、研修終了時に下記の目標の達成度を確認し、研修の振り返りを行う。

表 1 : 本プログラムにおける年次別の研修到達目標

研修年度		1	2	3	4
基本姿勢・態度					
1	患者、家族のニーズを把握できる。	○	○	○	○
2	インフォームドコンセントが行える。		○	○	○
3	守秘義務を理解し、遂行できる。	○	○	○	○
4	他科と適切に連携ができる。	○	○	○	○
5	他の医療従事者と適切な関係を構築できる。	○	○	○	○
6	後進の指導ができる。			○	○
7	科学的根拠となる情報を収集し、それを適応できる。	○	○	○	○
8	研究や学会活動を行う。			○	○
9	科学的思考、課題解決型学習、生涯学習の姿勢を身につける。	○	○	○	○
10	医療事故防止および事故への対応を理解する。	○	○	○	○
11	インシデントリポートを理解し、記載できる。	○	○	○	○
12	症例提示と討論ができる。	○	○	○	○
13	学術集会に積極的に参加する。	○	○	○	○
14	医事法制・保険医療法規・制度を理解する。	○	○	○	○
15	医療福祉制度・医療保険・公費負担医療を理解する。	○	○	○	○
16	医の倫理・生命倫理について理解し、行動する。	○	○	○	○
17	医薬品などによる健康被害の防止について理解する。	○	○	○	○
18	感染対策を理解し実行できる。	○	○	○	○
19	医療連携の重要性とその制度を理解する。	○	○	○	○
20	医療経済について理解し、それに基づく診療実践ができる。	○	○	○	○
22	側頭骨の解剖を理解する。	○			
23	聴覚路、前庭系伝導路、顔面神経の走行を理解する。	○			
24	外耳・中耳・内耳の機能について理解する。	○			
25	中耳炎の病態を理解する。	○			
26	難聴の病態を理解する。	○			
27	めまい・平衡障害の病態を理解する。	○			
28	顔面神経麻痺の病態を理解する。	○			
29	外耳・鼓膜の所見を評価できる。	○	○		

30	聴覚検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○		
31	平衡機能検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○		
32	耳管機能検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○		
33	側頭骨およびその周辺の画像（CT、MRI）所見を評価できる。	○	○	○	
40	鼓室形成術の助手が務められる。	○	○		
41	アブミ骨手術の助手が務められる。	○	○		
42	人工内耳手術の助手が務められる。		○	○	○
43	耳科手術の合併症、副損傷を理解し、術後管理ができる。	○	○		
44	鼻・副鼻腔の解剖を理解する。	○			
45	鼻・副鼻腔の機能を理解する。	○			
46	鼻・副鼻腔炎の病態を理解する。	○			
47	アレルギー性鼻炎の病態を理解する。	○			
48	嗅覚障害の病態を理解する。	○			
49	鼻・副鼻腔腫瘍の病態を理解する。	○			
50	細菌・真菌培養、アレルギー検査を実施し、その所見を評価できる。	○			
51	鼻咽腔内視鏡検査を実施し、その所見を評価できる。	○			
52	嗅覚検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○		
53	鼻腔通気度検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○		
54	鼻・副鼻腔の画像（CT、MRI）所見を評価できる。	○	○	○	
55	鼻・副鼻腔炎の診断ができる。	○	○		
56	アレルギー性鼻炎の診断ができる。	○	○		
57	鼻・副鼻腔腫瘍の診断ができる。	○	○		
58	顔面外傷の診断ができる。	○	○		
59	鼻中隔矯正術、下鼻甲介手術が行える。	○	○		
60	鼻茸切除術・篩骨洞手術・上顎洞手術などの副鼻腔手術が行える。	○	○	○	
61	鼻・副鼻腔腫瘍手術の助手が務められる。	○	○		
62	鼻出血の止血ができる。	○	○	○	○
63	鼻科手術の合併症、副損傷を理解し、術後管理ができる。	○	○		
65	口腔、咽頭、唾液腺の解剖を理解する。	○			
66	喉頭、気管、食道の解剖を理解する。	○			
67	扁桃の機能について理解する。	○			
69	呼吸、発声、発語の生理を理解する。		○		
70	味覚障害の病態を理解する。	○			
71	扁桃病巣感染の病態を理解する。	○			
72	睡眠時呼吸障害の病態を理解する。	○	○		
73	摂食・咀嚼・嚥下障害の病態を理解する。	○	○		
74	発声・発語障害の病態を理解する。	○	○		

75	呼吸困難の病態を理解する。	○	○		
76	味覚検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○		
77	喉頭内視鏡検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○		
78	睡眠時呼吸検査の結果を評価できる。	○	○	○	
79	嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○	○	
80	喉頭ストロボスコープ検査、音声機能検査を実施し、その所見を評価できる。	○	○	○	
81	口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術ができる。	○	○		
82	咽頭異物の摘出ができる	○	○		
83	睡眠時呼吸障害の治療方針が立てられる。		○	○	
86	喉頭微細手術を行うことができる。	○	○		○
88	気管切開術とその術後管理ができる。	○	○		○
89	頭頸部の解剖を理解する。	○			
90	頭頸部の生理を理解する。	○			
91	頭頸部の炎症性および感染性疾患の病態を理解する。	○			
92	頭頸部の先天性疾患の病態を理解する。	○			
93	頭頸部の良性疾患の病態を理解する。	○			
94	頭頸部の悪性腫瘍の病態を理解する。	○			